

## 四条通の社会実験（案）

### 社会実験の目的

京都の魅力と活力が凝縮された歴史的都心地区において、四条通の歩道拡幅及び公共交通優先化をはじめ、安心・安全な歩行空間の確保や賑わいの創出などにより、この地区の一層の活性化による京都の魅力を発信していくとともに、「歩くまち・京都」総合交通戦略の目標である人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現に向け、市民・観光客の皆様に実感していただくシンボル事業として「歩いて楽しいまちなか戦略」を推進している。

平成22年度の社会実験については、四条通の歩道拡幅の着実な実施を目指し、京都府警察や道路管理者等との協議、調整を踏まえ、バス、荷捌き、タクシー、一般車両、細街路の交通処理への様々な対応策を個別に行い、交通量や駐車台数の変化、走行経路などの調査結果を検証する。これら個別の対応策の効果を融合させることにより、都市計画決定に向けた全体の交通計画をとりまとめる。

### 社会実験の内容

事前調査（バス運行状況調査、車両挙動調査、GPS調査、路上駐停車調査、自動車OD調査） 10月～

業務交通に関する実験 11月～3月

バスを対象とした実験 2月

○ バス停の集約化

集約化を実施して、交通の円滑化及び利用者の利便性向上を図る。

○ バス運行経路の見直し

四条通を走行するバス運行経路の見直しを行う。

【調査項目】バス運行状況調査、車両挙動調査、交通量調査

荷捌き車両を対象とした実験 1月

（物流WG 第4回9月10日実施）

○ 午前中集約化

四条通における荷捌きを午前中に集約化するよう物流事業者に徹底し、荷主に対しても集配活動を午前中集約してもらうように働きかける。

○ 路外荷捌き場の設置

歴史的都心地区内に、共同で利用可能な路外荷捌き場を設置し、物流事業者に路外荷捌き場を活用した集配活動を行ってもらうように働きかける。

○ KICSによる実験

KICSが佐川急便と連携した路外荷捌き場を実験的に設置し、地区内において手押し台車による集配活動を行う。

【調査項目】GPS調査、路上駐停車調査、路外荷捌き場利用調査、意向調査

タクシーを対象とした実験 11月、3月

○ タクシーMM

（タクシー駐停車マナー向上マネジメント会議 第1回8月9日、第2回10月6日実施）

タクシードライバーの意識変容を促すことにより、四条通での違法な客待ちや不要な通過交通の抑制を図るとともに、実験期間中に、違法な客待ちに対する指導啓発、取締り強化を図る。

○ タクシー乗り場の見直し

乗り場については、四条通上には設置しない場合と現状よりも設置箇所を減少した場合を実施し、四条通を通行するタクシーの流入抑制を図る。

【調査項目】GPS調査、路上駐停車調査、交通量調査

一般交通に関する実験 12月

○ 経路変更を促す看板設置や広報活動による通過車両抑制

四条通や歴史的都心地区内の細街路の各入口等に経路変更を促す看板を設置することや広報媒体による広報活動により、通過交通の抑制を図る。

【調査項目】自動車OD調査、交通量調査

細街路における交通処理

○ 人が主役のまちなか道路

細街路における通過交通の抑制と歩行者の回遊性向上、地域の賑わい創出を目指し、昨年度から引き続き高倉通、東洞院通にてワークショップを開催し、今後のあり方を検討していく。また、細街路における通過交通の規制については、地元要望による府警との協議・調整を図る。

○ シェアード・スペース実証実験（11月）

（京都市シェアード・スペース検討協議会 第1回10月21日実施）

都心部の細街路を対象として、路側線や速度規制標識を隠すことにより「相手のことを考える」という配慮意識を醸成させるシェアード・スペースの社会実験を実施する。

【調査項目】車両走行速度調査、交通量調査、意向確認調査

放置自転車対策

○ 臨時駐輪場の設置

四条通周辺の駐車場に臨時駐輪場を設置し、四条通や周辺地域の放置自転車の削減を図る。

効果調査（バス運行状況調査、車両挙動調査、GPS調査、路上駐停車調査、路外荷捌き場利用調査、自動車OD調査、車両走行速度調査、交通量調査、意向調査） 11月～3月

### 社会実験の実施スケジュール

10月 事前調査（車両挙動調査、自動車OD調査）

11月 タクシーMMの実施

効果調査（GPS調査、路上駐停車調査、交通量調査）

シェアード・スペース実証実験

効果調査（交通量調査、車両速度調査、意向調査）

12月 一般交通に関する実験（経路変更を促す看板設置や広報活動）

効果調査（自動車OD調査、交通量調査）

1月 荷捌き実験（午前中集約化、路外荷捌き場の設置）

効果調査（GPS調査、路上駐停車調査、交通量調査、路外荷捌き場利用調査、意向調査）

2月 バスを対象とした実験（バス停集約化、バス運行経路の見直し）

効果調査（バス運行状況調査、車両挙動調査、交通量調査）

3月 タクシー乗り場の見直し実験

効果調査（GPS調査、路上駐停車調査、交通量調査）

### 事前調査及び効果調査の内容

バス運行状況調査

路線バスの定時性向上（四条通の旅行速度の向上）効果を把握する。

車両挙動調査

停車車両の合流による車両相互の干渉などの交通現象を把握するため、ビデオ撮影による観測を行う。

GPS調査

タクシーや荷捌き車両の走行経路の変化を把握するため、車両にGPS機器を搭載し観測する。

路上駐停車調査

四条通や歴史的都心地区の駐停車の削減効果を把握するため、調査員が巡回し目視にて駐停車車両を観測する。

路外荷捌き場利用調査

路外荷捌き場の利用状況を把握するため、調査員を配置し、利用台数、貨物量等を調査する。

自動車OD調査

四条通や歴史的都心地区等を通行する自動車トリップの起終点や移動経路等の特性を把握するため、歴史的都心地区周辺を出入する車両のナンバープレート調査を行う。

車両走行速度測定

実験による車両速度への影響を調査する。

交通量調査

交通量の削減効果を把握するため、交差点ごとの車種別、方向別に計測を行う。

意向調査

各実験に対する市民や各事業者の意向を把握するため、アンケートを行う。